

発 言 通 告 書 要 旨 (1 枚目／全 3 枚)

氏 名 林 茂信

発言番号			発言事項及び発言要旨	備 考
1	(1)		宮元市政 3 期目の振り返りについて 3 期目 4 年間の政策スタンスについて この 4 年間も、実に挑戦的な取組、新しい取組に邁進してきたように思う。3 期目の 4 年間でどのような政策スタンスで市政運営を行って来られたのかを改めて問う。	
	(2)		3 期目の重要政策について 政策スタンスに基づき、特に強力に進めて来た取組は何であったのか。 内容とその成果について示せ。	
2	(1)		令和 7 年度当初予算について 「成長のサイクル」について 3 期目までの取組の延長として、これまでの考え方からぶれることなく、「人材育成と教育」と「イノベーションの導入」を主軸として施策を推進するとのことであるが、提案理由説明で示された「成長のサイクル」とはどのような展開を目指しているのか、具体的な説明を求める。	
	(2)		ふるさと納税の取組強化について 当初予算では、ふるさと納税寄付額収入を 12 億円と見込んでいるが、これは令和 6 年度当初予算と比較して 4 億円、同年度補正後予算と比較しても 1 億円以上の伸びとなっている。 ここ数年、ふるさと納税寄付額は右肩上がり伸びており評価したいと思うが、さらに全国のトップランナーに追いつかばかりの頑張りを求め、エールを送りたい。 そこで令和 7 年度におけるふるさと納税額アップに向けた具体的な方針について示せ。	
3	(1)		ライフデザイン推進事業について 庁内の推進体制について 12 月定例会でも述べたとおり、賛同し、期待する取組である。 令和 7 年度には、居住支援事業、DX 人材リスキリング促進事業、かがっこ応援プロジェクト 2025 など、幅広い分野をカバーし、総合的にライフデザインの推進を図ろうとしており評価したい。しかし、各事業担当課は分散しており、市役所特有の縦割り意識が働くと、ばらばらな取組となってしまう効果が薄れてしまうおそれがある。 新年度の組織見直しによって、市民健康部に「ライフデザイン室」が創設されるが、「ライフデザイン室」がライフデザイン推進事業の司令塔となり、事業全体をコーディネートしながら広く全体の進捗管理を行うという理解でよいのか。	

発 言 通 告 書 要 旨 (2枚目/全3枚)

氏 名 林 茂信

発言番号			発言事項及び発言要旨	備 考
	(2)		居住支援事業について 地域コミュニティの衰退の可能性が高い「大聖寺」と「松が丘」をモデル地域として、空き家増加を抑制し新たな多世代型のコミュニティの創出を図ろうとしているが、大聖寺モデルと松が丘モデルとでは、取組内容が異なるように見える。 そこで、それぞれのモデルの違い、特徴、モデル地域での事業実施後の他の地域への展開方針について示せ。	
4			宝塚医療大学観光学部の開設について 加賀市の主要産業に通じるテーマを研究する教育機関が設置され、若い世代を中心として学生が集まり、加賀市に住んでいただくことで人口増加にもつながるという点で、良い取組であると思う。令和9年4月を目途に120人規模のキャンパスが整備されることになろうかと思うが、設置場所としてはどこを想定しているのか。 また、学生の住む場所や買い物、移動の利便性の確保を図ることが必要であると考えられるが、観光学部開設に合わせて、どのような環境整備を行う予定であるのか。	
5			エアモビリティ産業創出事業について 昨年11月に「加賀市次世代エアモビリティコンソーシアム」が発足し、参画メンバーを中心に新しい産業基盤としてのドローンやエアモビリティなどの空の産業の集積を目指し、関連事業者が研究、開発等を実施することができる環境の整備を行うものとしている。 共通の研究項目や研究発表などをコンソーシアムとして企画していくなど、具体的な行動が必要であると考えるが、コンソーシアムの年間開催予定や事業目的を実現するための具体的な行動予定について示せ。	

発 言 通 告 書 要 旨 (3枚目/全3枚)

氏 名 林 茂信

発言番号			発言事項及び発言要旨	備 考
6	(1)		上下水道事業について 管路の老朽化に伴う事故の未然防止について 埼玉県八潮市の下水道管の損傷による陥没事故で、トラックが巻き込まれ、また、120万人もの人々に対して下水道の使用自粛が要請されるなど、大きな被害や影響が生じた。 その後も、埼玉県や千葉県など国内各地で老朽化した水道管が破裂して水が噴き出し、住宅に被害が生じるなどしている。 八潮市での事故の後、加賀市でも緊急点検を行ったことは、先の総務経済委員会で当局側から説明があった。八潮市の下水道本管の直径は4.7メートル、本市の下水道本管は1.0メートルと施設規模も異なるものの、本管のつなぎ目の定期的な点検やマンホール周辺の目視での点検だけで十分に安全が確保できるか疑問である。 そもそも、老朽化によるリスクの増大は、ある程度予測し、把握することができるのではないかと考える。 上下水道施設に関しては、経過年数以外の要素を含めてAIを活用した老朽化予測の取組を行っているようであるが、こうした取組を含めて、事故を未然に防止するために上下水道施設それぞれについて、どのような対策を講じているのか。	
	(2)		PFI・PPP導入や事業広域化の取組方針について 上下水道施設は、安心・安全を最優先で確保すべきライフラインであり、これらの事故を未然に防止するためには施設の老朽化対策などを計画的に、しっかりと行う必要があり、安易なコストカットは避けるべきであると考えます。 そのために必要な費用を賄うため、例えばPFIやPPPの導入による民間との連携や市の区域を越えた事業の広域化によって、経営をより効率化することで老朽化対策のための費用を捻出し、賄うことができると考えるが、所見を問う。	